

令和7年6月定例仙台市社会教育委員の会議 会議録

- 日 時 令和7年6月6日(金) 10:00～12:03
- 場 所 仙台市役所上杉分庁舎 12階教育局第1会議室
- 出席委員 阿部哲也委員, 安藤直美委員, 泉山靖人委員, 齋藤愛委員, 高橋美和委員, 高橋由臣委員, 内藤良介委員, 中山慎也委員, 沼里理恵委員, 朴賢淑委員, 松本大委員, 若生彩委員 (12名出席)
- 事務局職員 伊勢生涯学習部長, 武者生涯学習支援センター長, 小幡生涯学習課長, 大泉生涯学習課企画係長, 岡本生涯学習課施設係長, 細川生涯学習課生涯学習係長, 生涯学習課生涯学習係 金光寺主査, 青沼主査, 石垣主任, 生涯学習課企画係 大山主事

○会議の次第

- 1 開会
- 2 挨拶 (松本委員長)
- 3 協議事項
 - (1) 提言の骨子案・構成案について
- 4 その他
 - (1) 令和6年度社会教育関係団体の活動実績について
- 5 閉会

○会議の概要

(1) 協議事項

①提言の骨子案・構成案について協議を行う前に, 前回会議録と参考資料1及び参考資料2に沿って, 委員長から前回会議の内容について振り返りを行った。

●前回会議の振り返りは以下のとおり。

・前回会議では, 各グループで提言書の中項目を決定していただいた。(1)居場所, (2)キーパーソン(人とのつながり), (3)行政の支援, として, 「地域におけるこどもの学びと居場所」グループ(以下, 地域グループとする)と「外国にルーツを持つこどもの学びと居場所」グループ(以下, 外国グループとする)で中項目を統一することになった。

・地域グループの中項目・小項目案は以下のとおり。

- (1) 居場所: ①こどもの居場所, ②親の居場所,
③行きたいところを自分で選択できる居場所

(2) キーパーソン: ①場を提供する人と地域の繋がり

(3) 行政の支援: ①お金, ②場所, ③人

・外国グループの中項目・小項目案は以下のとおり。

- (1) 居場所: ①外国にルーツを持つ人にとって居場所とは何か, ②学校教育の居場所,
③社会教育の居場所

(2) キーパーソン: ①地域の人の事例,

②外国にルーツを持つ子どもたちが将来どんな影響をもたらすか

- (3) 行政の支援：①こどもへの周知方法（特に義務教育後），
②居場所づくりの機会醸成，③場の提供

②続いて，提言書の骨子案・構成案について，資料2に沿って委員長から説明を行った。

●説明は以下のとおり。

- ・資料2の提言書の骨子案・構成案について，前回の会議の内容を踏まえて正副委員長と事務局にて修正を加えさせていただいた。大きな修正の内容としては，前回の会議では，中項目は居場所・キーパーソン・行政の支援の3つだったが，副題に学ぶ喜びとあるため，学びの項目を新しく加えさせていただいた。
- ・その他各論部分については，前回会議の話し合いで発表していただいた小項目を入れている。
- ・こどもの学ぶ喜びの場所について（仮）となっている総論・共通事項の部分は，正副委員長により小項目を入れた。地域グループと外国グループの内容を踏まえて，仮置きで入れているため，今日の各論の内容に応じて変わってくるところもあると考える。

③続いて，本日の協議内容について，委員長から説明を行った。

●説明は以下のとおり。

- ・本日は，グループに分かれて小項目を決めていただくということが重要な作業になる。まず大きな内容として，中項目に学びという項目を付け加えたため，その学びという中項目に応じた小項目を考えていただきたい。資料2の小項目①②③というのは，仮に3つ置いているものであり，3つ挙げる必要があるというわけではない。1つでも2つでも，いくつでも構わない。
- ・それに加えて，前回会議で考えていただいた小項目についても，提言書に記載するにあたって，見出しとして適切な文言に整えていただく。つまり，それぞれの小項目，その他のところについても，より推敲していただくことが本日の内容になる。
- ・小項目をある程度決めていただいて，執筆担当を仮でも良いので決めていただくというのが本日の最終目標になる。
- ・各小項目のボリュームは，多くても1ページに収めていただくことになるかと思う。前期の提言書で言うと，例えば30ページの（2）ネットワークへの支援というのがここである中項目で，①プラットフォームになる場の形成，31ページの②対面ネットワークの形成というのが小項目になる。
- ・それぞれの小項目をどなたが執筆されるのかということもご検討いただきたい。
- ・学び，居場所，キーパーソン，行政の支援という4つの中項目に紐づく小項目について，提言書に記載する見出し，小項目を決めていただく。行政の支援に関しては，前回会議でも提示があったが，資料3に市の取組についての資料があるため，こちらも踏まえてご検討いただくとよろしいのではないかと思います。

●説明に対する意見・質問は以下のとおり。

泉山委員 提言書の構成について，後ろに調査記録を載せるということによろしいか。

松本委員長 そのようになる。

泉山委員 具体的には，調査記録を参照しながら読み進めてもらうという書き

方もできるということか。

松本委員長

その通りである。委員の皆様は昨年度調査をしていただいたが、その記録は、例えば前期の提言書で言うと、41 ページ以降のような形で今期も掲載するようになる。調査報告の内容については今後整えていく必要があるが、場合によってはこれを参照しながら読んでください、というような書き方をすることもできる。

④各グループで小項目の内容について話し合いを行った。

[外国グループより発表：グループリーダー 泉山委員]

- ・資料2に記入されているところからの大きな変更はない。
- ・まず、空欄だった学びの小項目は、大きく3つの視点でまとめられないかと考えた。今の段階でのタイトルとしては、支援をする側にとっての学びとは何かという、支援する側の学び、そしてそれに参加する・利用する側の学び、という2つの視点をまず設けようと考えている。3点目として、その両者をつなぐものとして、今回の調査の中で様々なツール、例えば自動翻訳機を使っているであるとか、或いはSenTIAのようなところからの人の派遣、コミュニケーションをサポートする人の派遣などがある。そういった両者をつなぐ手段というような視点も含め、この3つの視点で、学びという中項目をまとめようと考えている。
- ・2点目の居場所については、基本的な項目は現在の案の通りであるが、順番を入れ替えて、学校教育・社会教育のそれぞれの居場所をまとめた上で、それを振り返るような視点として、外国にルーツを持つ人にとって居場所とは何かという小括のような形で小項目を入れようかと考えている。この背景には、参考資料1の中にもあるとおり、居場所という言葉自体、或いは概念自体が、外国ルーツの人たちにどこまで理解されているのか、そういう視点での振り返りというのをここで入れていけばいいと考えている。学校教育・社会教育というものをまとめた上で、そういう視点で、学校教育・社会教育を振り返ってみるような形にすればよいのではないかと考えている。
- ・キーパーソン、行政の支援については、現状今の形であるが、キーパーソンの1点目の地域の人の事例のところ、総論の方で入っているキーパーソンの種類を入れようと考えている。
- ・小項目としては以上であるが、具体的にそれらをまとめるにあたっての視点として、大きく4つぐらいのことを意識しながらまとめられればいいかなというように考えていた。
- ・順不同になるが、まず視点として、支援をする側と支援を利用する側のそれぞれにとって学びが生じているというようなこと、支援をする側にも学びがあるということを意識しながらまとめていこうというのが1点目である。
- ・2点目として、日本語を伝えるだけでなく、日本での生活文化といったようなものも、この学びの中には含まれている。或いは、それに関わる交流といったようなことも、まとめるにあたっての視点に入れればいいのではないか。
- ・3点目として、利用する人たちの中には、長期滞在の人がいれば短期滞在の人もある。そうすると、例えば、母国語というものをどれだけ尊重するか、というような視点も含まれてくるかと考える。そのあたりも認識しながら、それぞれの項目をまとめてい

く。

- ・そして4点目が、最終的にこういう取組を通して、外国にルーツを持つ人たち、こどもたちにも、社会に参加してもらいたいという思いが、最終的なメッセージになるかと思うが、その前の問題として、知らないということがあるのではないか。お互いを知らない。何があるのか知らない。それを知る、知ろうとする。そういうきっかけづくりというか、そういう方向に進めるにはどうしたらいいかという視点を入れて、まとめていけばいいのではないかと考えた。

●発表に対する意見・質問は以下のとおり。

松本委員長 学びの小項目が、支援する側の学び、利用する側の学び、両者がつながる視点。居場所の小項目が、学校教育、社会教育、外国にルーツを持つ人にとって居場所とは何か。

泉山委員 順番は入れ替えるようになる。

松本委員長 キーパーソンの方は、基本は同じであるということであった。

泉山委員 視点として、キーパーソンの種類という、総論の方で触れられている内容を、こちらでも入れたい。

松本委員長 ①地域の人の事例に続く括弧の中にキーパーソンの種類を追加するというところでよろしいか。

泉山委員 その通りである。

松本委員長 (4)の行政の支援は原案通りということであった。

泉山委員 総論で、学校・NPO・ボランティアといった視点が出ているので、そういう人たちの中での具体的な活動というまとめ方で、今の報告のような形になる。

松本委員長 先ほどおっしゃったのは小括になるような視点の話ということで、支援する側・される側のそれぞれの学び、そして日本の生活文化も含めた学び、外国にルーツを持つ人にもいろんな多様性があるということと、お互いを知ろうとするきっかけをつくり出せばいいということ。

泉山委員 (1)から(4)までも意識するが、それが小括にもなる。

[地域グループより発表：グループリーダー 内藤委員]

- ・我々の方からは、外国グループの皆様方への提案も含めながら話をさせていただきます。

・まず(1)の学びの小項目について、様々な意味合いはあるが、こどもに対しての学びというのをしっかりと入れるべきであると考えた。その中には、今までずっと議論があった、自分で選べることや、楽しんでできること、失敗ができることなど、いろんな視点も含めながら、まずこどもたちの学びについて考えることが、社会教育に繋がっていく話であるということで、こどもの学びを小項目にしたいと思っている。もう1つ考えた小項目が、様々な意見が出たものではあるが、最終的に大人の学びという小項目に落ち着いた。こどもと大人という分かりやすい対照的な表現にさせていただいて、大人の学びという中には、親や支援者をはじめとした地域にいる人たちを、大人というような表現の中に入れて、それぞれの立場の中での学

びが必要であるというような話にしていきたいと思っている。

- ・続いて2番目の居場所について、外国グループへの提案をさせていただきたい。中項目については、全部統一するという事で話が進んでいた。我々はこの居場所の小項目を考えたときに、現段階で資料2に記載されているのは、①こどもの居場所、②親の居場所、③行きたいところを自分で選択できる居場所、とあるが、③行きたいところを自分で選択できる居場所というのは、こどもであれ親であれ、対象となる話であるということがあった。ただ、その含まれる中でも、こどもや親の思いは別々のものだと考えているため、この話はそれぞれ、①こどもの居場所②親の居場所の小項目に組み込もうということで、③をなくすという話になった。
- ・それをもとに、こどもの居場所、親の居場所ということで、どうしようかということで話をしたが、まず2番目の親の居場所というところに関しては、1番目の学びのところで、先ほど親とかも含めて、大人の学びという表現をしていたため、ここは親の居場所ではなく、大人の居場所という考え方にしながら、先ほどの一番の学びのところも含めて、大人の皆様方の居場所のことを書いていきたいというところである。
- ・これを小項目にしたときに、今のままだとこどもの居場所、大人の居場所という2つになってしまうが、我々が視察に行った場所などのいろんな話もありながら、この居場所という表現だけでは、どこまで上手く表現できるだろうか、というのが議論で出たところである。
- ・その中で我々の方で提案をさせていただきたいのが、中項目の居場所というところを、居場所のあり方というような表現に変えさせていただけると、我々の小項目が、先ほどのこどもの居場所のあり方、大人の居場所のあり方という、あり方というものを付け加えさせていただくことにより、非常に書きやすくなると思ったため、外国グループの皆様方のご意見もお聞きしたいという意見が出た。
- ・続いて3番目のキーパーソンの小項目について、場を提供する人と地域の繋がりというように元々入れさせていただいたが、これを大きく変えさせていただきたい。外国グループの皆様の方でも、後継者の育成や人材探しの育成というのが出ている中で、我々も結局そこに行き着くところであった。場を提供する人と地域の繋がりという表現ではなくて、後継者の育成といったものにさせていただく。後継者を育成することに先立って、まず支援している人たちの想いのもと継続してやっていることについて、その想いが続かなくなってしまうことを避けていくために、人材育成・後継者育成というのを入れ込むような形にしたいため、支援者の思いに続いて、場を提供する人と地域の繋がりということについて書ければいいという話になった。
- ・最後に行政の支援の小項目について、露骨な表現であるということで、文言を変えさせていただいた。①お金のところについて、総論部分の小項目に①経済的支援と書かれているため、それに合わせて経済的支援に変えさせていただきたい。次の小項目②についても、総論部分で小項目だった場所の支援と同様の内容ではあるが、場所だけではなく、提供というところにも重きを置きたいという意見があり、場所の提供というようにしたいと思っている。同じく小項目③の人というところを、人への支援というような追記をしたい。その上で、全体的な流れを、学びと、学びを

するための居場所があり、その居場所を運営するためにはキーパーソンになる方が必要である。ここは民間で運営する前提で論じているが、そこで経済的支援や場所などを含めながら、行政の支援を加えることによって、地域におけるこどもの学びと居場所というトータル的な話ができればよいというような思いで、話し合いを行った。

●発表に対する意見・質問は以下のとおり。

松本委員長 地域グループは、学びの小項目が、①こどもの学び、②大人の学びであり、大人には、親や支援者や地域の人が含まれる。居場所の小項目は、居場所というよりは居場所のあり方という方がよいのではないかという提案もあったが、小項目としては①こどもの居場所のあり方、②大人の居場所のあり方となった。キーパーソンの小項目が、①支援者の思い、②後継者育成ということであった。行政の支援の小項目は、①経済的支援、②場所の提供、③人への支援ということであった。中項目の居場所の表記について、居場所のあり方というふうにしたらよいのではないかという提案があったが、外国グループに意見を伺いたい。

泉山委員 質問をさせていただきたい。居場所のあり方というときに、その言葉だけ見ると、二つとらえ方があるように思う。あり方というと、あるべき姿という意味合いもあると考えており、表立ったものとして、あるべき姿という意味合いの方が強いイメージであると考えている。

朴副委員長 居場所について、外国グループは実際に見た事例をこの部分に書くようになるため、あり方とすると、提案のように聞こえてしまい、こちらが書きたい内容と異なるところがある。イメージとして、やはり我々がフィールドワークに行ったものに基づいて、現状はどうなっているかということを書こうと思っていた。

泉山委員 振り返りのところで、あるべき姿に繋がるように、提案に係る記述を入れられるとよいと考えている。

松本委員長 中項目の表記について、今の段階で無理に統一する必要はないと思う。ひとまず、タイトルの部分の話では、地域グループの方は居場所のあり方で、外国グループの方は、居場所ということで進めてよいと考える。

泉山委員 一言であり方といっても、実は内容が違うあり方になる可能性もあると考える。

松本委員長 そこに関しては、おそらく文章や内容も出てきた段階で、再度検討することも可能かと思うため、ひとまず地域グループの方は、今日の提案通り、このまま進めていただきたい。

⑤続いて、委員長から執筆分担について説明を行った後、各グループで執筆分担について話し合いを行った。

●説明は以下のとおり。

- ・まず、「はじめに」と「おわりに」の2カ所はどちらも委員長と副委員長で執筆する。
「審議の経過」と「1 仙台市における現状」は事務局でまとめる。ただし、「1 仙台市における現状」の（3）まともは委員長が執筆する。
- ・残りの部分となる、3、4の各論については、皆様に決めていただいた小項目ごとに執筆分担を決めていただく。決め方はそれぞれのグループにお任せする。

[外国グループより発表：グループリーダー 泉山委員]

- ・（1）学び
 - ①支援する側の学び：齋藤委員
 - ②利用する側・支援を受ける側の学び：高橋由臣委員
 - ③両者をつなぐ手段：若生委員
- ・（2）居場所
 - ①学校教育の居場所：高橋由臣委員
 - ②社会教育の居場所：朴副委員長
 - ③外国にルーツを持つ人にとっての居場所とは何か：齋藤委員
- ・（3）キーパーソン
 - ①地域の人の事例：泉山委員・朴副委員長
 - ②外国にルーツを持つ子どもが将来どのような影響をもたらすか：朴副委員長
- ・（4）行政の支援
 - ①子どもへの周知方法：若生委員
 - ②居場所づくりの機会醸成・場所の提供：泉山委員
- ・（5）小括 泉山委員

[地域グループより発表：グループリーダー 内藤委員]

- ・（1）学び 阿部委員・安藤委員
- ・（2）居場所のあり方 松本委員長・高橋美和委員
- ・（3）キーパーソン 中山委員・沼里委員
- ・（4）行政の支援 内藤委員
- ・（5）小括 原稿がそろい次第決定

●発表を踏まえて、委員長から執筆についての説明を行った。

松本委員長

本日決まった執筆分担をもとに、皆様に執筆作業を進めていただくことになる。執筆分担が決まったという理解でよろしいか。もし本日の会議で決まらなかった場合には、来週中に事務局にご連絡いただきたい。

提言書の文体について、できるだけわかりやすい言葉を使い、「です・ます」調で書くこと。より多くの人たちに見てもらえるようにしたい狙いがある。

また表記の統一について、本日の資料の最後の方に、一覧表を載せている。執筆を進めていくにあたって、参考にしながら書いていただきたい。

執筆についてご質問がある場合は事務局にご連絡いただきたい。

なお、素案の取りまとめについては各グループリーダーにお願いしたいと思っているが、よろしいか。地域グループは中山委員がご担当ということである。

⑥委員長から今後のスケジュールについて説明を行った。

●説明は以下のとおり。

- ・資料4、検討スケジュール（案）をご覧ください。次回会議は8月を予定している。8月会議でまとめた素案を確認できるよう、素案の原稿については6月30日までに各グループリーダーにご提出をお願いします。あくまで素案であり、完成版ではないため、文章ではなく、箇条書きでも良いかと考える。グループリーダーは、自身のグループの素案を取りまとめて、7月7日までに事務局にご提出いただきたい。各グループから提出された素案を事務局にて集約・調整する。
- ・提言書の内容の検討は今後の会議でも引き続き行うため、無理のない範囲でご担当いただければと思う。素案については、次回8月の会議で確認したい。その後、10月に中間案、12月に最終案という予定で進めていく。

●説明に対する意見・質問は以下のとおり。

中山委員 各委員が素案づくりを始めるが、雛形となるワードファイルは事務局の方からご提供いただく形になるのか、或いはすでに受け取っていたのか。

泉山委員 フォーマットが前回にあったように思う。

事務局 この後、雛形の方を展開させていただく。

松本委員長 そのように願います。他にご質問はあるか。

泉山委員 まとめ方についての確認である。今回はこういう内容を扱うといったことについて、箇条書きレベルのものでもいいということであった。原稿がグループリーダーのもとに来た時点で、取りまとめ役がやるべきことについて確認したい。一つのファイルにまとめるだけでいいのか、それとも調整までした上で提出するのか。

松本委員長 進捗状況にもよると思うが、事務局としては、この構成案の目次の通りに整理していただくと大変ありがたい。グループリーダーの取りまとめについて、最低限のやっていただきたいことはそのぐらいかと思う。もし、グループの中でやりとりがあれば、必要に応じて調整していただきたい。

泉山委員 各自の原稿の内容に重複が発生することも考えられるため、適宜調整したい。

松本委員長 繰り返しになるが、完成稿でなくてもよい。皆さんお忙しいというのは重々承知しているため、できる範囲で構わない。無理のないように取り組んでいただきたい。

4 その他

事務局より、資料5 令和6年度社会教育関係団体の活動実績について説明があった。

5 閉会

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第4条及び第5条に基づき会議録を作成し、同要領第6条に基づき委員長及び会議録署名人が署名する。

令和 7 年 9 月 4 日

委員長（署名欄）

木村 大

署名委員（署名欄）

中山 慎也